

今でも、産業界の動きに疎い傾向がありますね。荷主企業が「SCM（サプライ・チェーン・マネジメント）をしたい」と言っても何のことかわからないとか。小さな会社だけでなく上場するような大手企業でも、体系的な社員教育をしているところはなく、現場でOJTというパターンなんですね。様々な経歴を持つ人が集まってくる業界なので、人をつかうことが非常に難しい。私は「所長産業」だと言っているんですが、営業所の所長さんの力量に大きく依存する業態です。そして、物流企業で働いている人でも、物流の全体像が見えていないことが多いのです。

そんな物流企業の改善は大変です。企業ごとに現場の状況は大きく違ふし、経理や労務、後継者問題まで、課題も多岐にわたるので、結果がでるまで時間がかかります。だからこそ、物流企業の改善は現場主義でやらなければいけない。当社のコンサルティング・スタッフは、全員、物流業界の経験者なんですよ。実際の現場を知っている人でないと、結果を出せないと考えているのです。

## 物流のプロを育てる学校

創業して5年目くらいから、物流専門の人材紹介を始めました。せっかく変わった現場が、我々が手を離すと元に戻ってしまうケースもあったので、センター長や営業所長ができる人材を紹介するというものです。これは、日本で当社しかやっていない事業です。

さらに、今春から物流実務カレッジを開校します。一般的な物流の講習というと知識として教えてもらう座学ばかりで、これまで現場のプロを育てる機関はありませんでした。全日制で1年間、高卒以上で、第二新卒を含めた若者が対象です。一口に物流といっても、食品、外食、機械部品、自動車、アパレルなど様々で、構内作業もあれば、情報管理の仕事もあります。様々な現場を体験することで物流の全体像を理解し、将来、物流業界を内側から改革する力になってくれる、物流のプロを育てたいのです。

我々がコンサルティングで改善できる企業の数には限界がありますが、コンサルティングで培ったノウハウや問題意識をもとに人材を育成して業界に送りこめば、大きな変革を起こすことができる。これから少子化が進むなかで、若い人たちが物流業界に来てくれるような環境作りのためにも教育が必要です。

物流業界全体の底上げを図って、将来、「ベストロジション」という表彰制度をつくるのが私の夢です。

## ●日本ロジファクトリーの概要

会社名	株式会社日本ロジファクトリー
所在地	大阪本社 〒542-0081 大阪市中央区南船場2-11-18 中村ビル2F TEL:06-6245-3368（代表） 東京本社 〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-9 八重洲アルックス 45F TEL:03-6214-0987（代表）
URL	<a href="http://www.nlf.co.jp">http://www.nlf.co.jp</a>
設立	1996年7月1日
資本金	4,025万円
会社使命	荷主企業と物流企業の温度差をなくす “物流バンク”を目指す
業務内容	物流スクール事業、3PL事業、物流実務コンサルティング、物流人材紹介事業、物流再生事業、物流システムプランニング、物流センター開発事業
対応エリア	国内全域・東南アジア・欧米諸国

## 陸海空の連携をもっと！

日本の物流全体に言えることですが、陸海空のコンビネーションが良くないですね。空港は、2005年の中部、2006年の神戸、北九州と新しいのを造るけれど、港湾の整備は遅れている。物流コストでみると飛行機は一番高くて船は安い。海運の使い勝手がよくなれば、もっと選択肢が増えるのですが。

関西でいうと大阪港と神戸港がスーパー中枢港湾の阪神港として整備されることで改善が期待されていますね。集中整備の必要性はわかりますが、同時に泉佐野などの小さい港をもっと活用できるようにしてほしいのです。和歌山への荷物は混雑した大阪まで行かずに、泉佐野の港を使ったほうが合理的でしょう？

環境問題を考えてモーダルシフトが必要だといわれています。実際、JRのコンテナの取扱量は飛躍的に伸びていますよね。でも、船とJRの連携がよくないし、最終地点まではトラックで運ばなくてははいけません。乗換えに手間がかかると、最初からトラックで運んだほうが安いということも珍しくないのです。陸海空の連携がうまくとれていれば、コスト削減も色んな可能性がでてくると思うのです。

物流は、製造や消費の動向を後追いでいく産業なので、景気のよい地域での仕事が多くなります。九州とかが元気ですよ。私も今は東京にいることも多いですが、大阪出身なので、関西に元気がないと言われるとつらいです。関西は民間企業にガッツがあるし、デジタル家電だけでなく、医薬品など強い産業もあるのだし、自分たちの良いところを信じて、どんどん前に行くべきだと思います。東京や他の地域を横目で見ながら「3、4年で巻き返すぞ」みたいな発想はやめたほうがいい。世界を相手に、長い目で取り組んでいきましょう。